

「清楚なのに巨乳っほい」という勝手なイメージで、世のオジサンたちの視線を集めていた半井サン。だが、不倫騒動の影響か、本業である気象予報士の仕事は、なかば、失業状態。

本業以外では、先月から日テレ系の深夜番組「東野・岡村の探偵」で、ナレーションを担当したり、「週刊漫画サンデー」の新連載「お天気ガール」の監修を務めるなど、ポツポツ仕事は舞い込んでいるようだ。

「ナレーションは前任者が産休に入ったためのピンチヒッター。番組スタッフが、『あのお姉さんいいよね。面白そうだから使ってみよう』と軽いノリでキャスティングされたそうです」(日テレ関係者)

しかし、同番組も六月いっぱいまで放送終了。副業もいまひとつパツとしない。

そんな彼女が力を入れているのが、地方での講演会。三重、山梨など、全国を飛び回っている。

今月十一日には、新潟の地元新聞が主催する「環境フォーラム」で講演。五百

人の観客を前に、ゆったり目の赤いワンピースに黒のジャケット姿で登場した。緊張しているのか、震える声でたどたどしく自己紹介をした後、

「この中で半井の予報を見たことがある方は? (会場でたくさん手が上がり) ああ、ありがたうございませう。出なくなつてから二カ月ちょっと。もう忘れられたかと思つていたので、すけど、うれしいです」

晴れの日はピンクの服

近況については、「こういう講演のほかに、実はテレビの仕事をしています」と、ナレーション業のほうもすっかりアピール。

講演テーマは「気象災害への備え」だったが、聴衆にウケていたのは、「お天気お姉さんのウラ話」。

「よく聞かれたんですね、『衣装をどうしてましたか?』って、NHKの場合、衣装はスタイリストさんがいて、ロッカーに何着か入っています。その中から天気に合わせて、『今日は晴れているから穏やかな

感じを出すようなピンク色にしよう』とか、覚れた天気だったら、『ジャケットを着て、しっかりした感じで伝えよう』とか、自分で衣装を決めます。

ヘアメイクもプロの方にやってもらいました。今日は自分でメイクをしていますので、いつもと顔が違うと、ナマで見てガツカリされている方もいらつしやるかもしれません(笑)。

「ヘアメイクと着替えて、だいたい一時間くらいかけてましたね。七時からの気象情報で、実はお昼くらいに出勤していったんですよ」

さすが、元、午後七時二十八分の恋人、あつという間にオサジのハートを驚づかみである。その後、天気予報で地名を間違えちゃった、という失敗談を披露し、会場を沸かせた。

そして白らぼソコンでスライドショーを見せようとするが、上手く作動せず、「あれ? 待ってくださいね。(機械に) 弱いからわかんなくなっちゃったよ」と、ドジっ子、よりが炸裂。オジサン・キラ一はま

だまだ健在なようだ。

折しも不倫疑惑のお相手だった健山義紀投手は、二十一日にメジャー初勝利を飾った。日本に残された半井サンの今後はどうなるのか。窓口であるNHKの関連会社に問い合わせると、意外な回答が。

「まだ正式にお伝えできませんが、



せんが、気象予報士の活動を軸に今後のスケジュールを調整していきます」

隠れ巨乳が拝める日も、案外近い?

オジサン・キラ一様

臓器売買執刀医 万波グループ放置した 厚労省の大罪

「先日発覚した臓器売買事件で、執刀医がまた万波誠医師だったと聞いて、うんざりしました。腎臓病の患者を一人でも多く救いたいという理想を掲げながら、結局は、暴力団に利用されているじゃないですか。

私の母は、弟の万波廉介医師に、切らなくてもいい腎臓の摘出手術を受け、移植に回されてしまいました。摘出手術を受けた病院を相手取って係争中です

六月二十三日に発覚した臓器売買事件、東京の医師が暴力団組長に一千万円の謝礼を支払い、紹介された二十二歳の男性と虚偽の養子縁組を結んだうえで、生体腎移植を受けていたことが明らかになった。

この移植手術の執刀医と

沈黙の追及 ファイル

冒頭の加藤さんの母親が、岡山県の病院で腎臓の摘出手術を受けたのは〇六年七月。その後、腎臓は宇和島の徳洲会病院に持ち込



「お母さんの件は、ドクターストップ(医師の自由)の範囲です。厚労省としてはこれ以上は何もできません」というのが回答でした」(同前)

加藤さんは、厚労省に失望し、昨年二月、病院を相手取って訴訟を起こした。

加藤さんは憤る。

「厚労省は一体誰のために働いているのでしょうか?」

誠医師のグループの活動は止まらない。放置し続ける厚労省の責任は重い。



再び執刀医として登場した兄・万波誠医師

またと報じられている。当時は、廉介氏が瀬戸内海周辺の病院で腎臓を摘出し、誠医師のいる徳洲会病院に送っていた。

加藤さんはこう話す。

「廉介医師は『腎臓の大家』という触れ込みでした。『九分九厘ガンです。すぐ取りましょう』と言われ、目を輝かせて、『是非私にやらせて下さい』と言うので、一週間後に摘出手術を受けました。手術前、『どうせ捨てるもんじやから、欲しい人に使ってもらったら、喜ばれます。私に下さい』と父母が言われ、役立つならと答えていたのですが、その時は『移植』という言葉は一切聞いていません。術後、ガンではなく良性の腫瘍だったことがわかり、母はうつ病になってしまったのです」

東邦大学医学部の相川厚教授は、〇六年十一月の事件発覚後、厚労省の調査班の班長として、加藤さんの例を含めた六例について聞き取り調査を行い、報告書をまとめた。加藤さんのケースについては、相川氏は著書『日本の臓器移植』(河

キムタク母 不思議な教え 「放射能には味噌が効く」

「講演慣れをしているのでしよう。『放射能』や『体内被曝』といったタイムリーな話題へのアドバイスまでありました」(参加者のひとり)

近頃すっかり文化人ぶりが板についてきたのは、S MAP・木村拓哉(38)の母、木村まさ子氏(61)。

以前は、都内でイタリアンレストランや神奈川で薬膳イタリア料理店を経営していたキムタク母。

「一昨年の秋に店をクローズしてからは、食育・教育問題の講演活動に熱心です。自治体や市民大学、PTAや倫理法人会などの招きで、日本全国を日々飛び回っています」(お茶会デスク)

「海苔もおいしい」とキムタク母



第3回 木村まさ子講演会

お茶会デスク